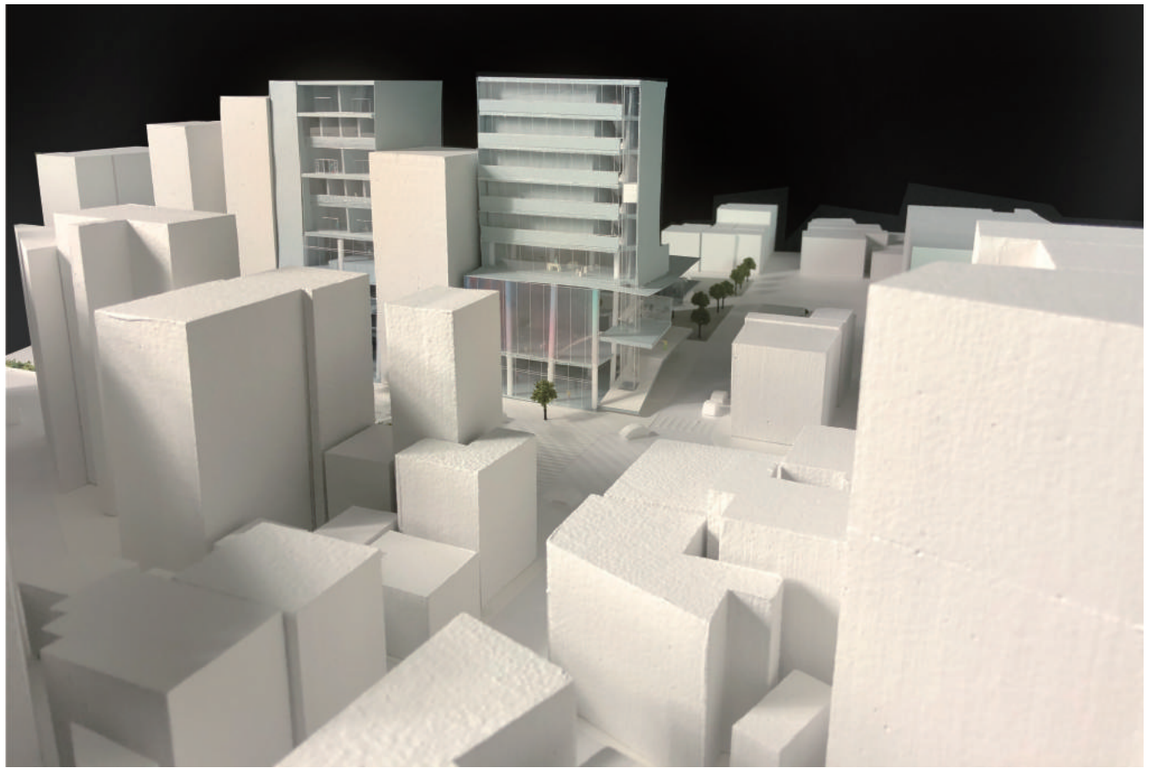
Fashion Hub KURAMAE

-PRing and Sharing of Creation-

工学部 建築工学科 山代研究室 AK16036　管 鴻



Purpose

モノづくりの街としての蔵前における問題点

＋

小売業の懸念

↓

若手デザイナーへの包括的なサポート
ファッションの持つ文化教育的側面を地域に還元

↓

蔵前のさらなる発展を目指す

ファッション市場の傾向

①購入対象の変化
大資本による大量生産・消費 → 独自性があるブランドへ

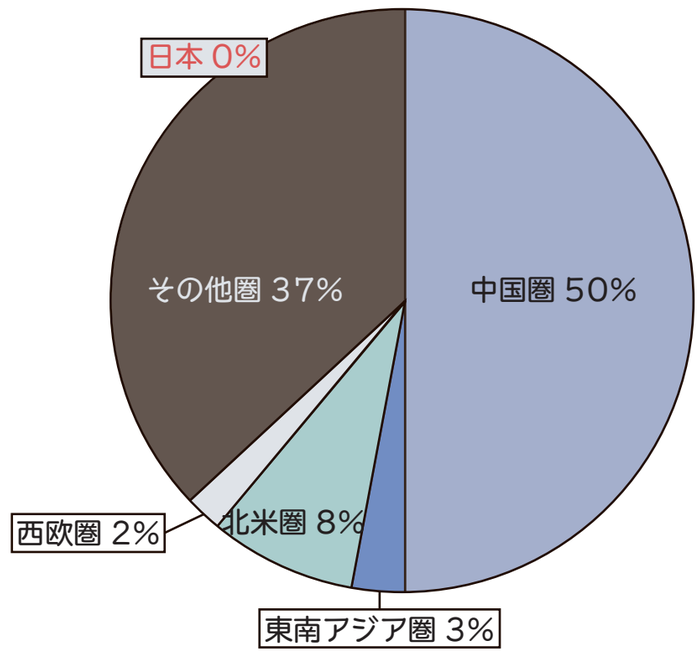
1970 年代	1980 年代	1990 年代	2000 年代
ファッション化社会	日本人デザイナーが 世界的に注目	バブルがはじけ不況へ 中国・ベトナムの生産が活性化	SPA 企業の出店が加速 ブランド生き残りが困難に
「チープルック」 「クロスオーバー」	COMME des GARÇONS Y'S	UNIQLO	「ストリートファッション」

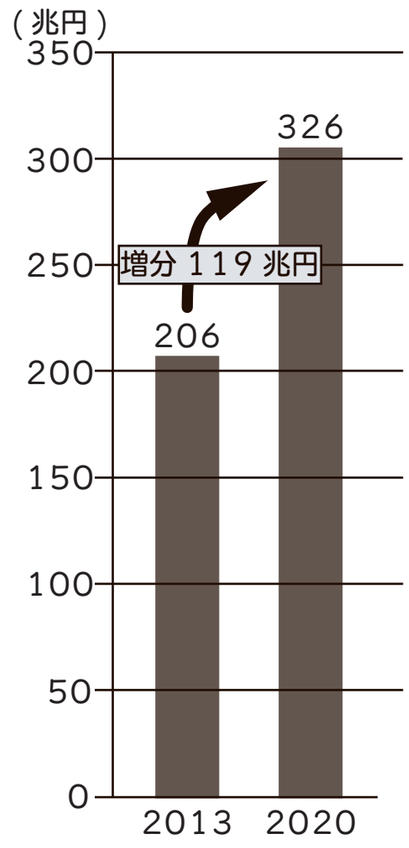
②トレンド市場における日本総合型アパレルブランドの衰退
独立系の小規模な「インディーズブランド」の存在感が高まっている

ファッション市場の変化

①主要国におけるファッション市場の推移
(2013 年 /2020 年予測)

日本 : 19 兆円 (変化なし)
中華圏 : 53 兆円→113 兆円 (60 兆円増)
東南アジア圏 : 4 兆円→8 兆円 (4 兆円増)
北米圏 : 53 兆円→63 兆円 (10 兆円増)
西欧圏 : 37 兆円→40 兆円 (3 兆円増)





蔵前の歴史

江戸時代に米蔵として作られた蔵前は、昭和時代にはその機能が
問屋・卸小売業集積に変わり、今もなお、東京にある問屋街の一つとして機能している。

集積してきた地場産業という歴史を生かし、最近では職人・クリエイターなどの
モノづくりを生業とする人が多く集まり始めている。
数ある地域イベントを通して地域住民だけでなく、様々な人に向けて
「モノづくりの街 蔵前」をアピールしている。

蔵前の特徴

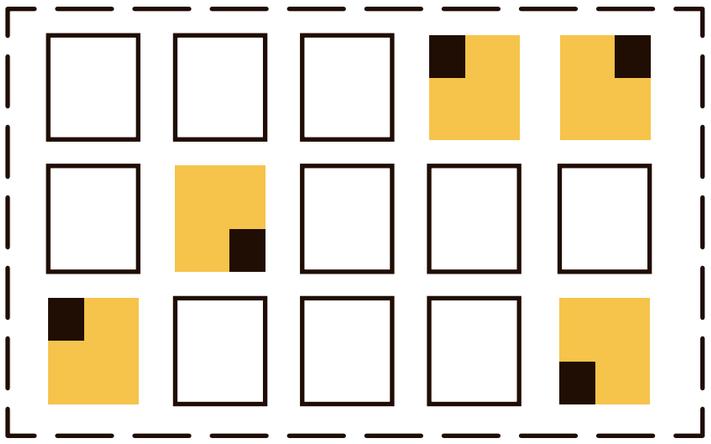
蔵前は物づくりの街として知られており、台東区の取り組みもあり、
クリエイターやデザイナーの工房が街に集まり始めているが、工房が歯抜け状態という問題がある。

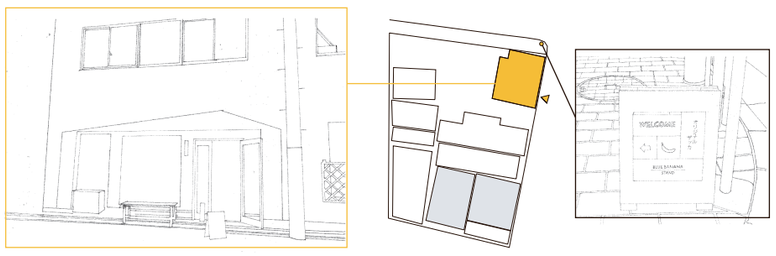
さらに蔵前は地場産業という特色を備えているにも関わらずその産業を支えていた小売業が減少している。
そこで台頭してきているファッション小売業の繋がりを強化することで
物づくりの街としての魅力を増すことができると考えた。

街全体で見ると…

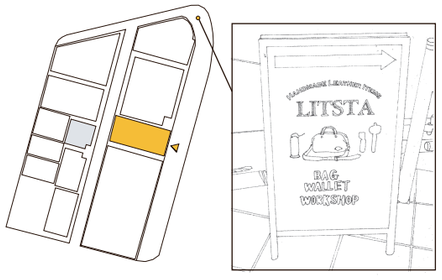
街の中に SHOP 兼工房が独立した状態で
点在しているため繋がりを感じられない。

SHOP 機能　工房　その他



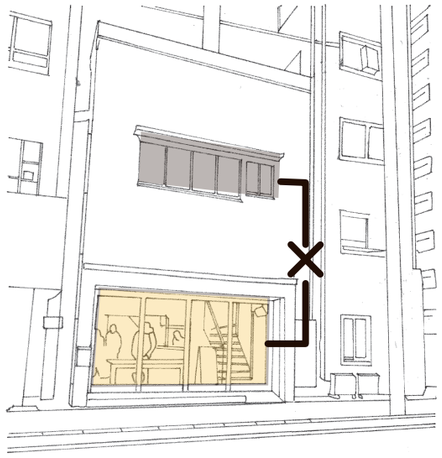


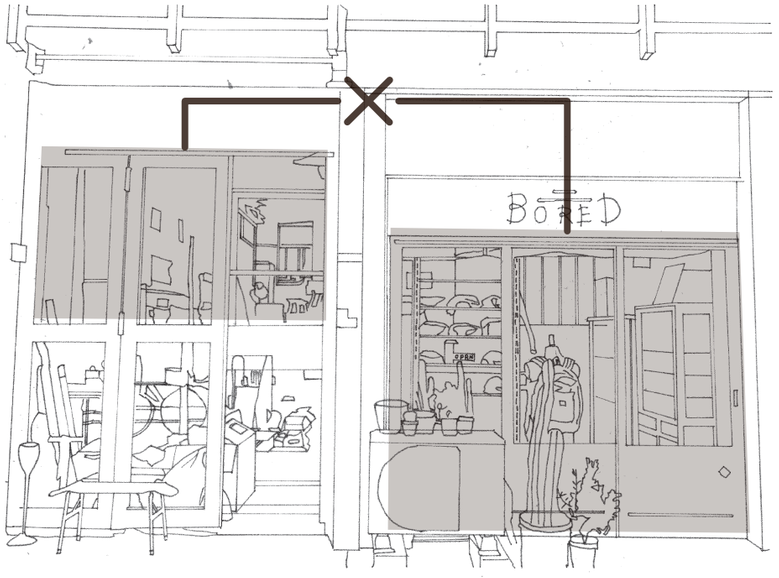
工房を示す看板が
工房から距離があり
わかりにくい。



建物ごとに見てみると…

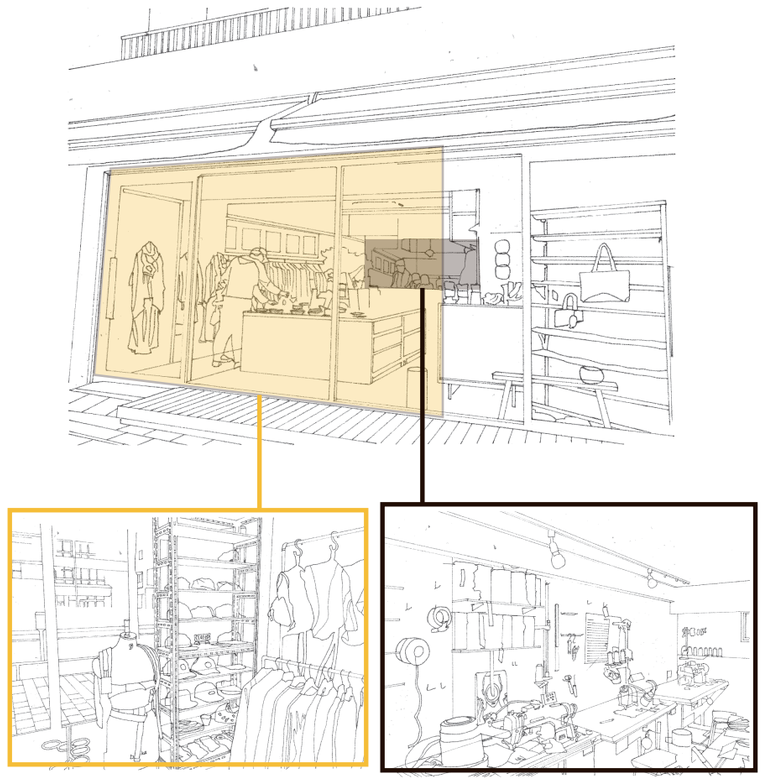
SHOP と工房機能が別フロアにある事が多く
創作活動が外から見た時にわかりにくくなっている。
隣同士の SHOP、工房でも関わりがなく
物づくりのネットワークが弱く感じる。

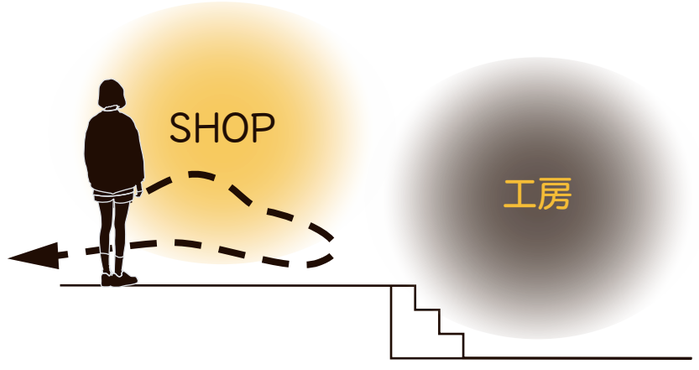


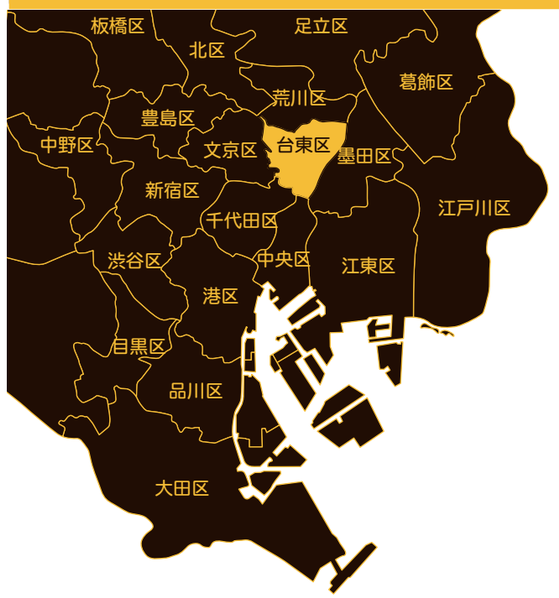


建物のフロアごとで見てみると…

デザイナーの創作活動が同フロアに
収まっているがお客さんは「SHOP」
エリアしか入ってこない。





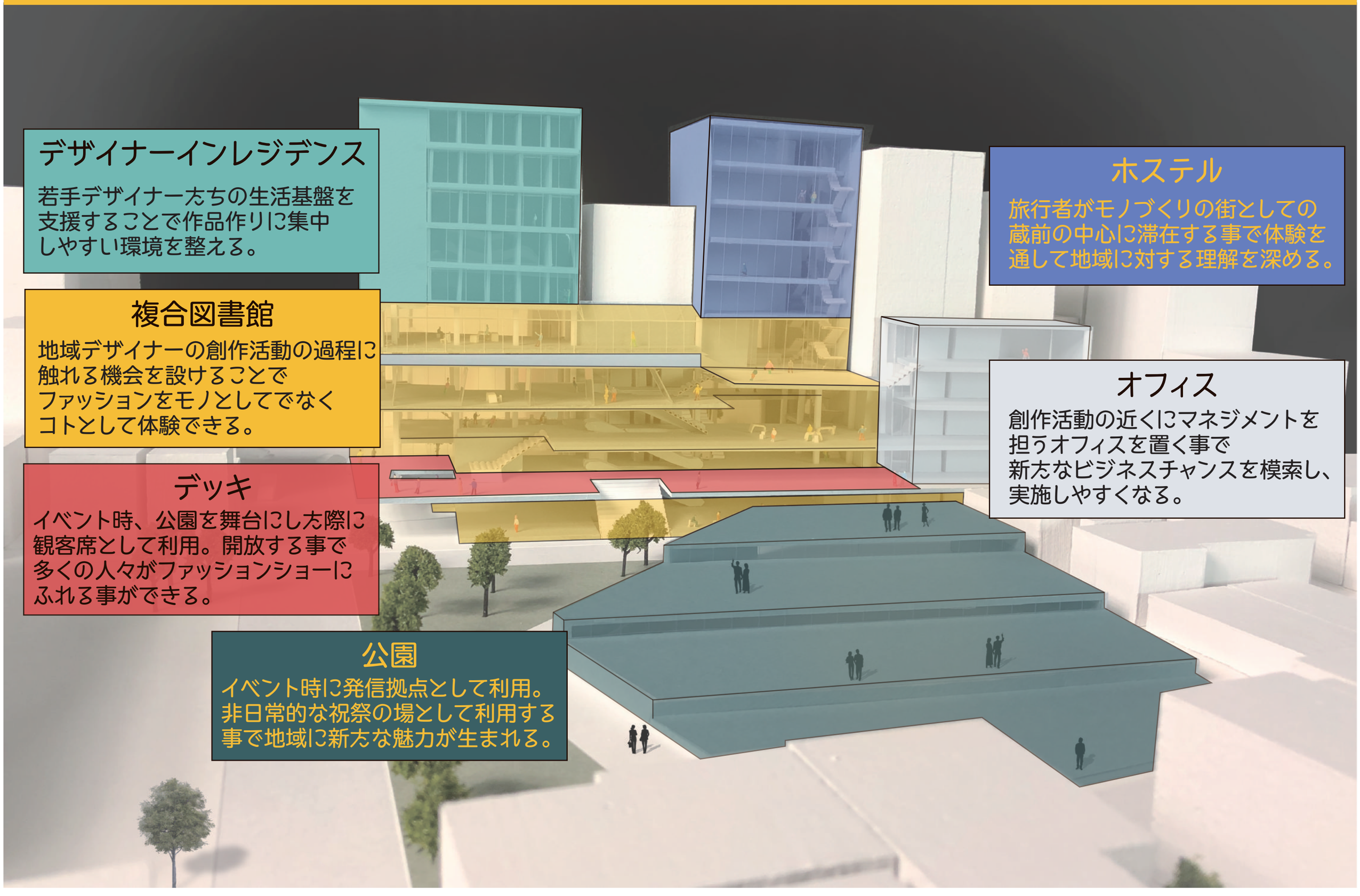


敷地概要

・所在地：
〒111-0051
東京都台東区蔵前４丁目１４番
・敷地面積：３２８０㎡
・用途地域：商業地域
・建蔽率：８０％
・容積率：５００％

蔵前周辺 縮尺:1/1600

公園
小学校・幼稚園
ホステル
工房兼SHOP
倉庫
敷地候補
隅田川
交通量が多い所
イベント時利用箇所



デザイナーインレジデンス

若手デザイナー方ちの生活基盤を
支援することで作品作りに集中
しやすい環境を整える。

ホステル

旅行者がモノづくりの街としての
蔵前の中心に滞在する事で体験を
通して地域に対する理解を深める。

複合図書館

地域デザイナーの創作活動の過程に
触れる機会を設けることで
ファッションをモノとしてでなく
コトとして体験できる。

オフィス

創作活動の近くにマネジメントを
担うオフィスを置く事で
新方なビジネスチャンスを模索し、
実施しやすくなる。

デッキ

イベント時、公園を舞台にし方際に
観客席として利用。開放する事で
多くの人々がファッションショーに
ふれる事ができる。

公園

イベント時に発信拠点として利用。
非日常的な祝祭の場として利用する
事で地域に新方な魅力が生まれる。

プログラム

ワークショップ

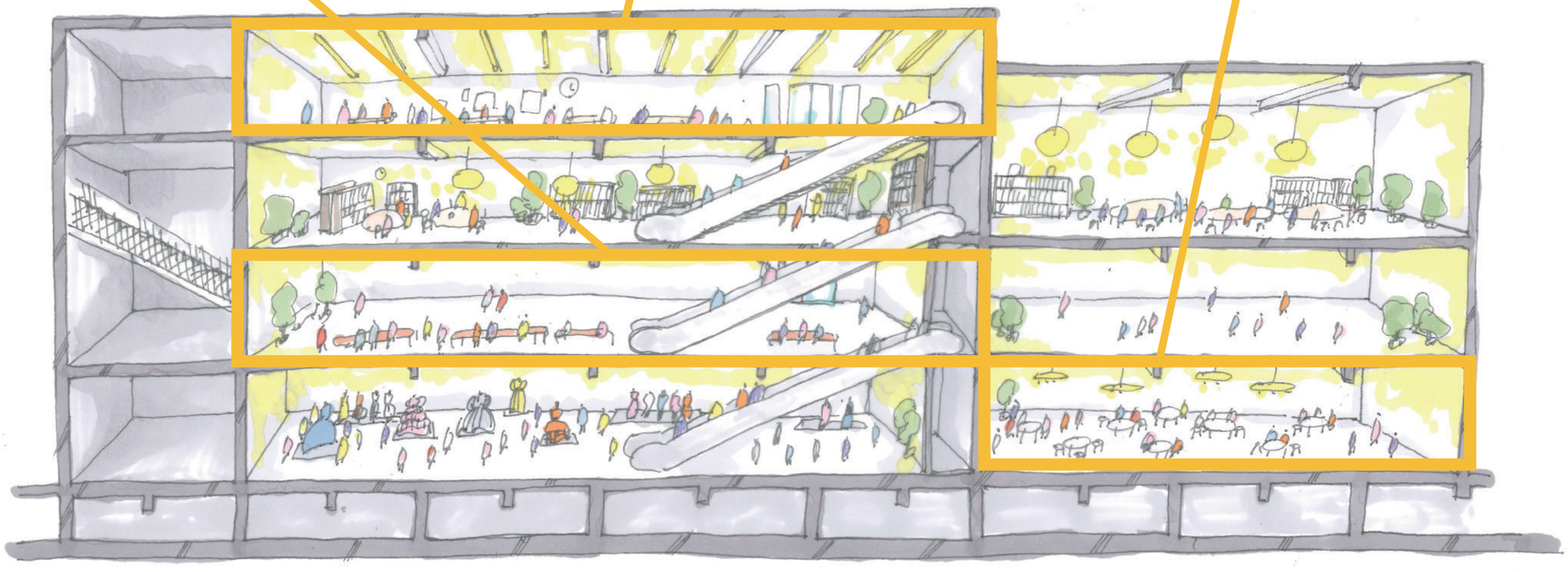
様々な活動が同じ空間で催される場所。
技術力や知識を共有し新たな
ビジネスチャンスを生み出す。

スタジオ

創作過程を地域に開き、様々な人が
地域に密着した活動をする事で
台東区ブランドの発信・発展を促す場所。

ストリートギャラリー

アーティストだけでなく地域住民も
製作者として参加できるギャラリー。
地域住民ならではの視点を生かし、
蔵前に眠る新たな魅力をアピールする機会を生み出す。

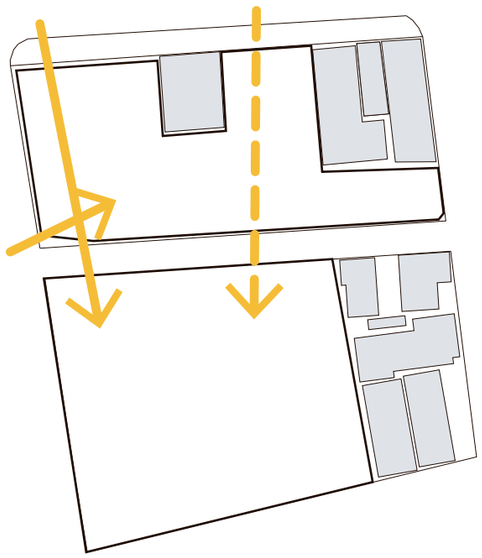


Diagram

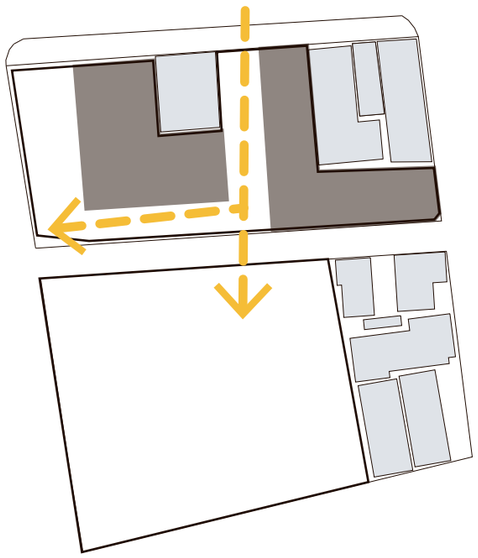
平面操作

→ 現在の交通状況から考えられる人の通り道

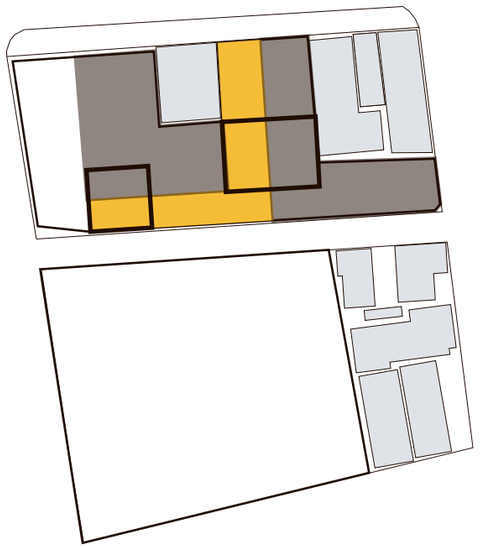
→ これから発生していく新規の通り道



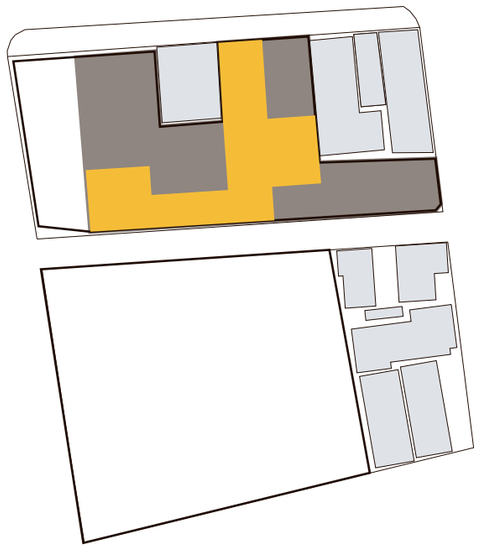
想定されうる人の通り道
（横断歩道から公園へ抜ける道、
小学校からの地域住民の通り道、
分析から考えられる新規の通り道）が
敷地に対して上図のように配置される。



公園への視線の抜けのために
セットバックされた建築を前述の
３つの人の通り道を考慮して配置。

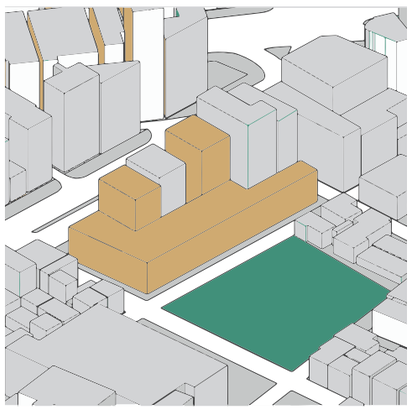


通り道にそって
ファッション業界の目玉となるような
展示機能を配置。

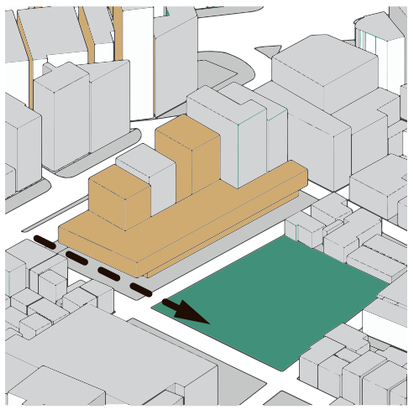


展示機能を室内化し、
この通り道＋展示空間を
この建築においての
重要な通り道として計画する。

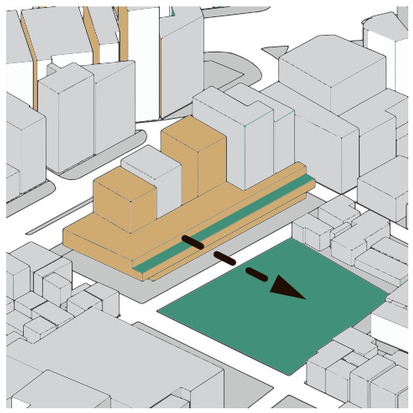
立面・断面操作



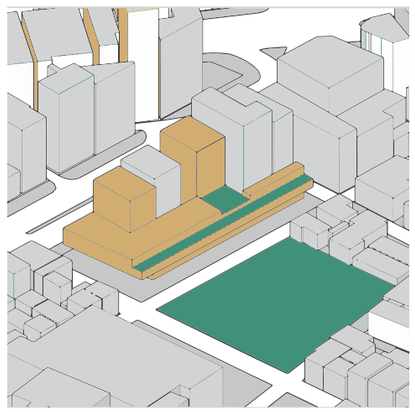
周辺既存建築のボリュームを
考慮し交差点側、公園側を低層とし、
大通りに面した部分を高層化する。



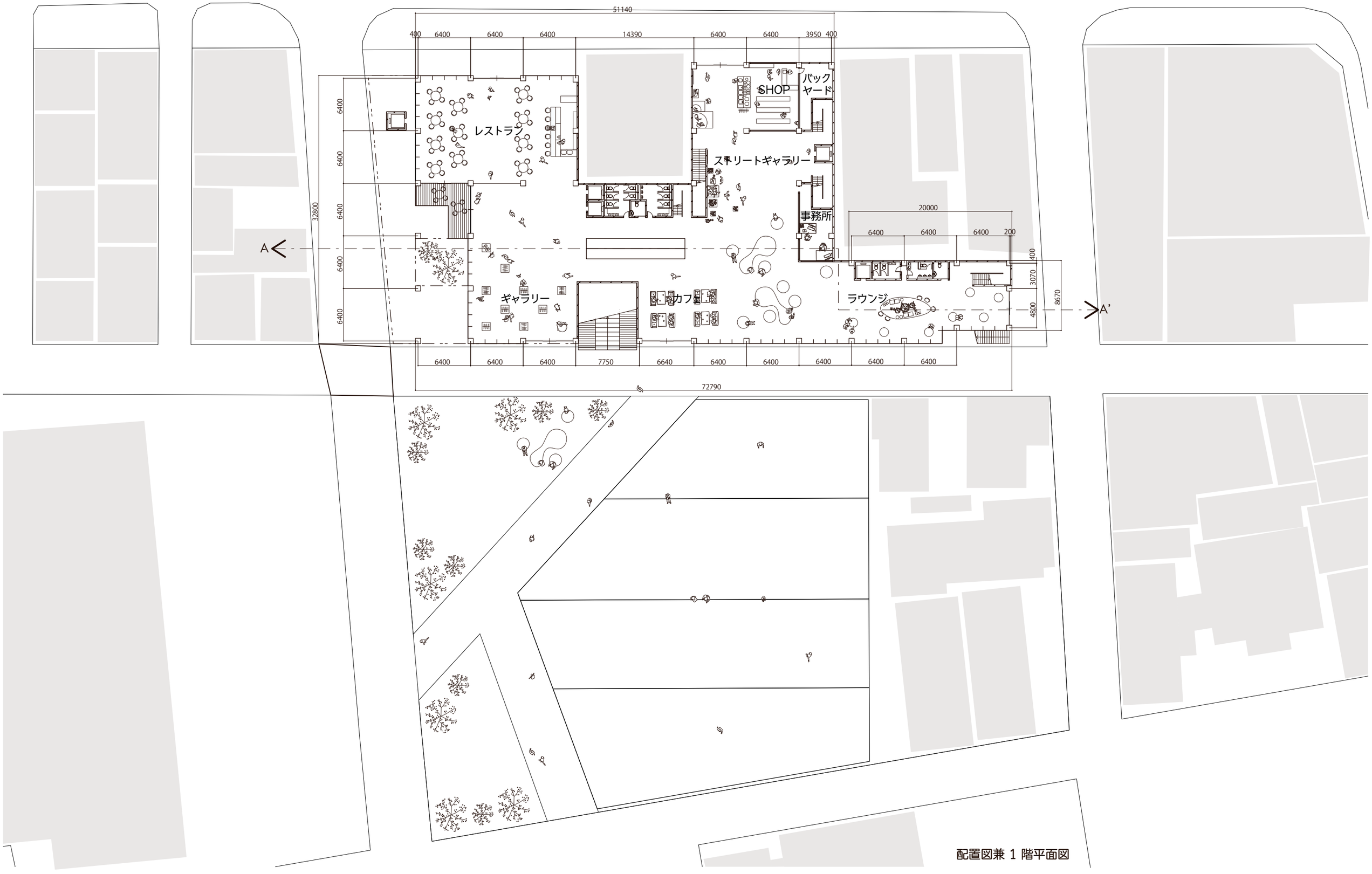
大通りの交差点側から建物を
見た際に、公園への視線の抜けを
考慮し建築をセットバックする。



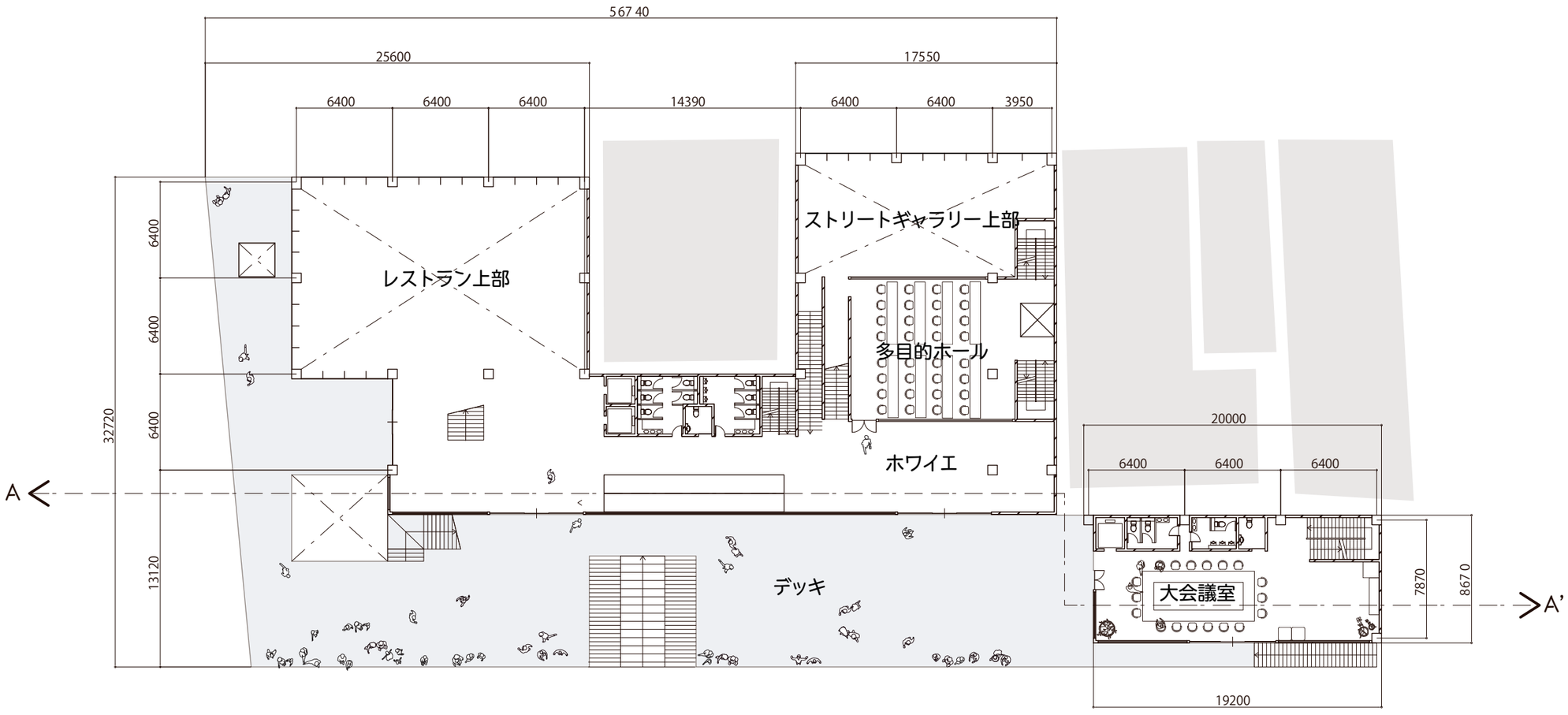
公園をイベントやショーの会場として
使う際に観客席としてデッキを
解放できるように設置。

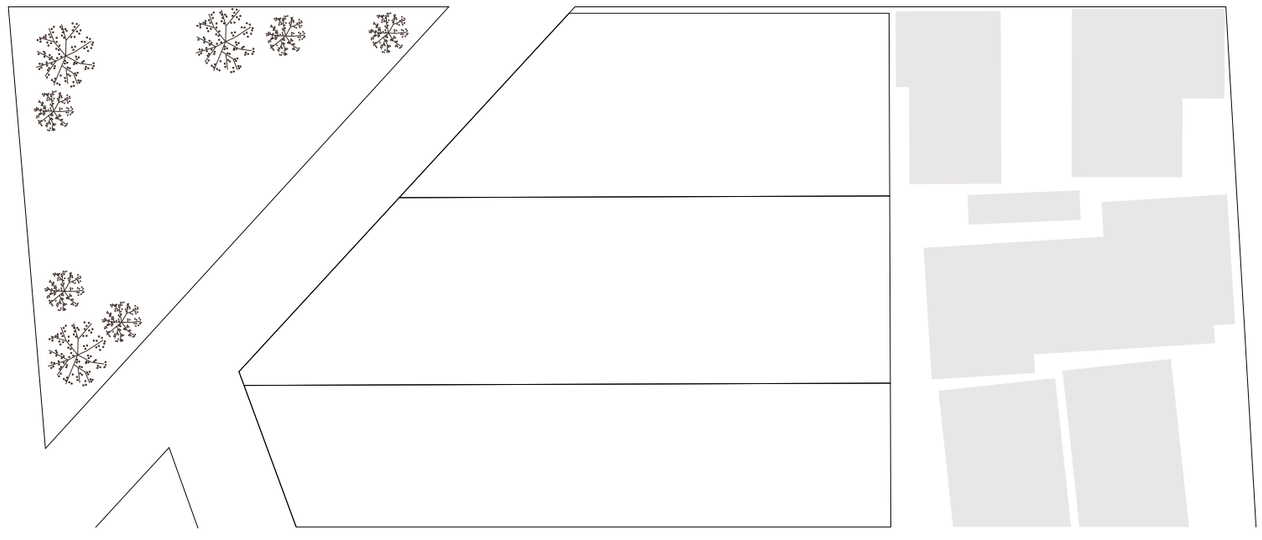


異なる高さに庭園を配置し、
対象を絞った憩いの場として活用。
同時に、緑が公園から続いていく。

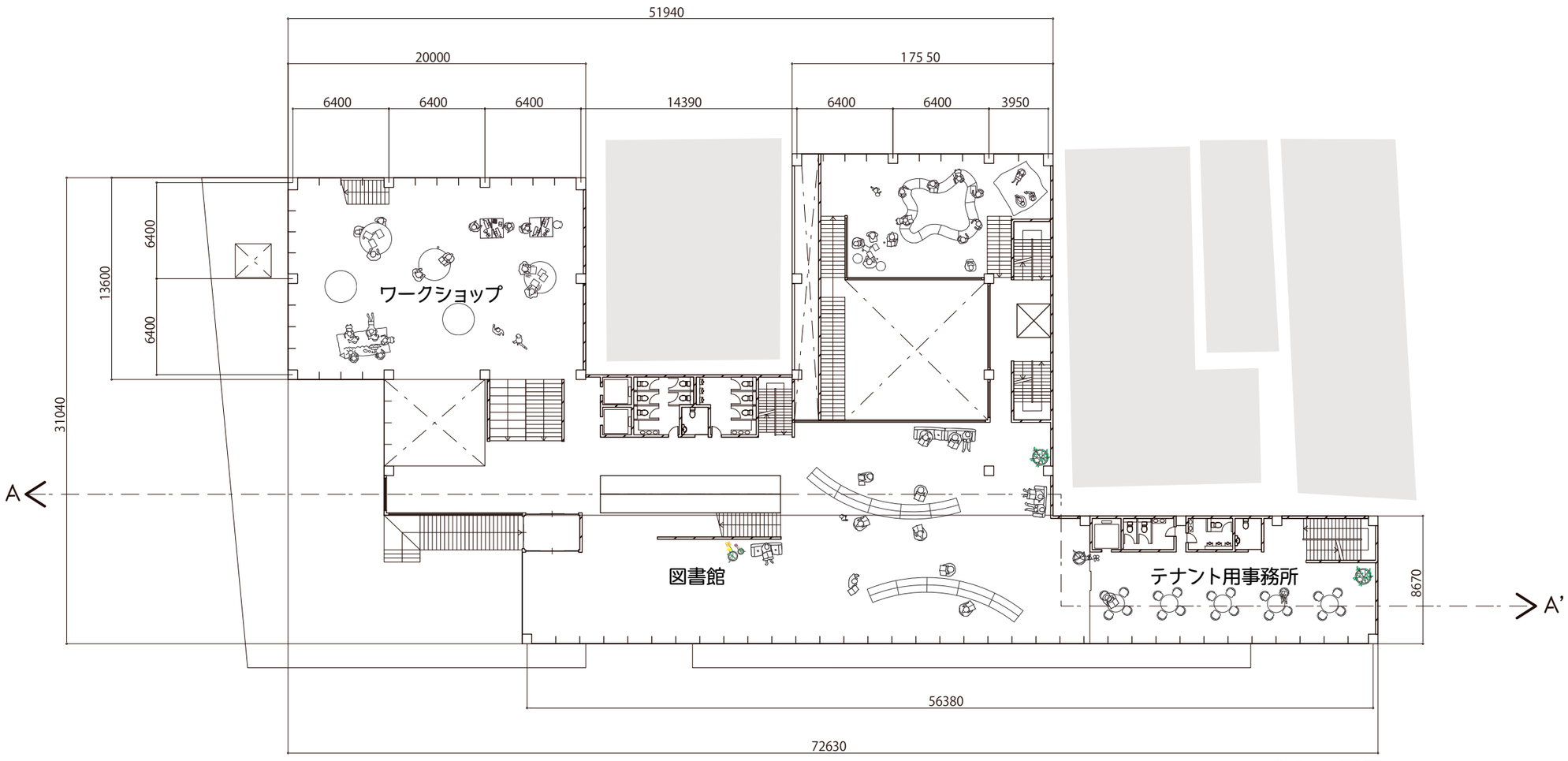

51140
400
6400
6400
6400
14390
6400
6400
3950
400
32800
6400
6400
6400
6400
6400
A
A'
レストラン
SHOP
バック
ヤード
ストリートギャラリー
事務所
ギャラリー
カフェ
ラウンジ
20000
6400
6400
6400
200
400
3070
4800
8670
6400
6400
6400
7750
6640
6400
6400
6400
6400
6400
72790

配置図兼 1 階平面図

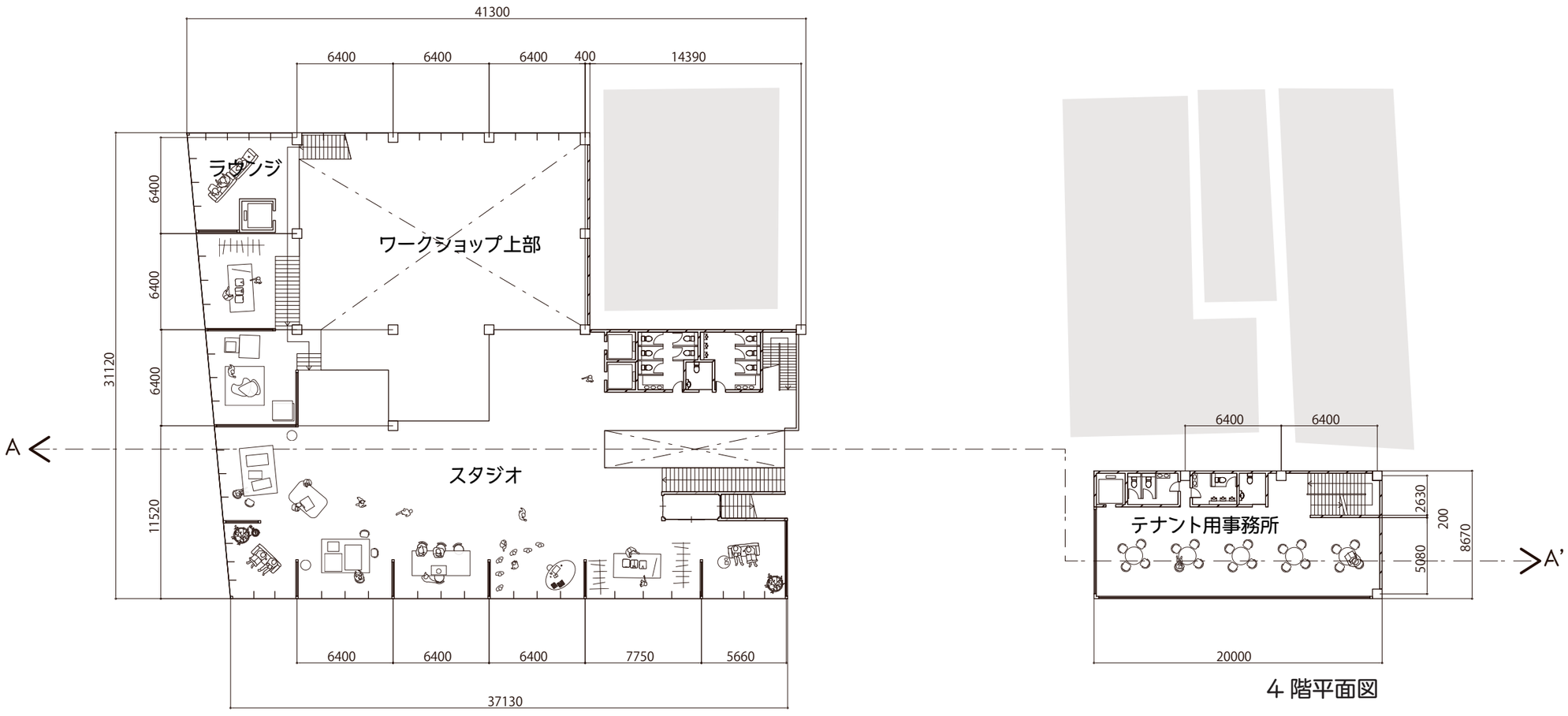

567 40
25600
17550
6400
6400
6400
14390
6400
6400
3950
6400
6400
6400
32720
13120
レストラン上部
ストリートギャラリー上部
多目的ホール
ホワイエ
デッキ
A
A'
20000
6400
6400
6400
大会議室
7870
867 0
19200



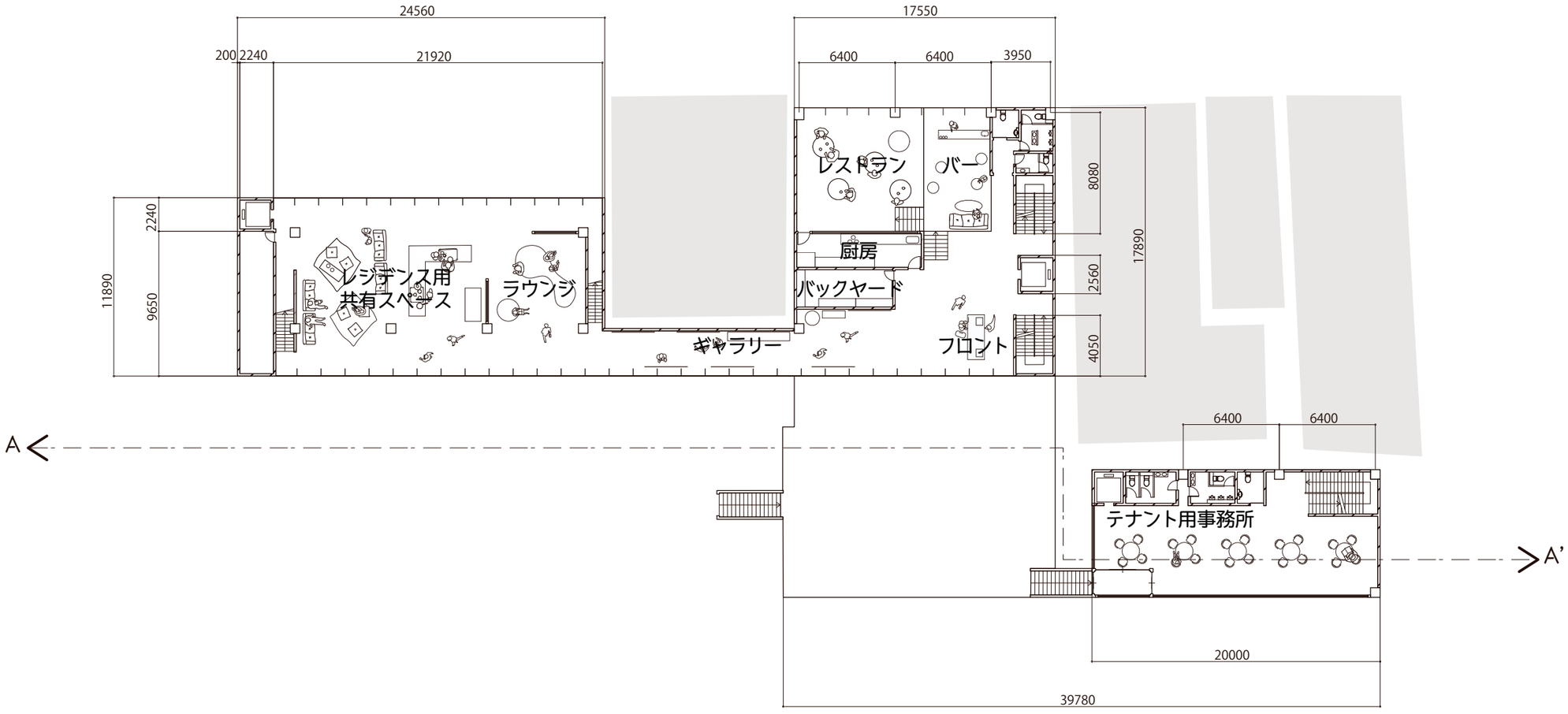
2 階平面図


51940
20000
175 50
6400
6400
6400
14390
6400
6400
3950
6400
13600
6400
31040
ワークショップ
A
図書館
テナント用事務所
8670
A'
56380
72630

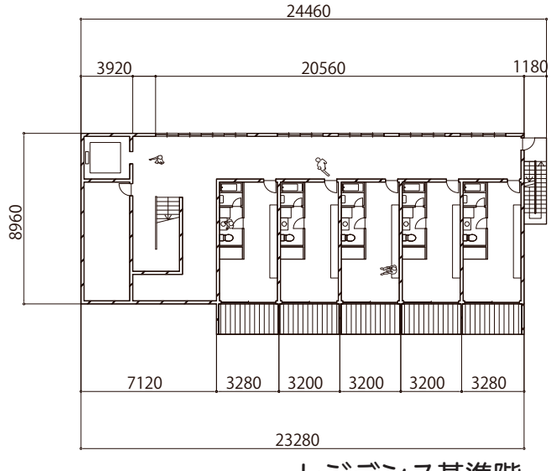
3 階平面図


41300
6400
6400
6400
400
14390
ラウンジ
ワークショップ上部
スタジオ
31120
6400
6400
6400
11520
A
6400
6400
6400
7750
5660
37130
6400
6400
テナント用事務所
2630
200
8670
5080
A'
20000

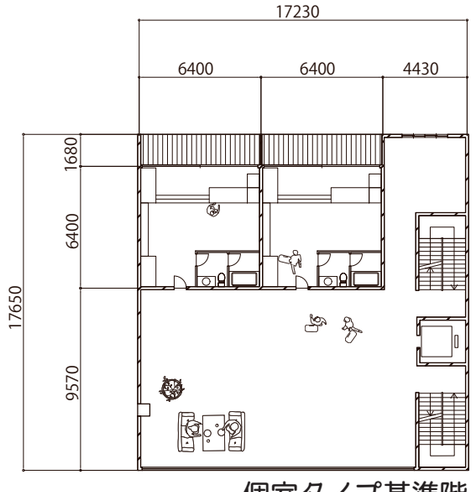
4 階平面図



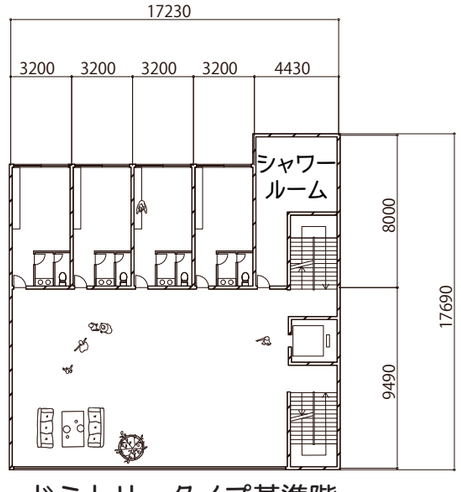
5 階平面図



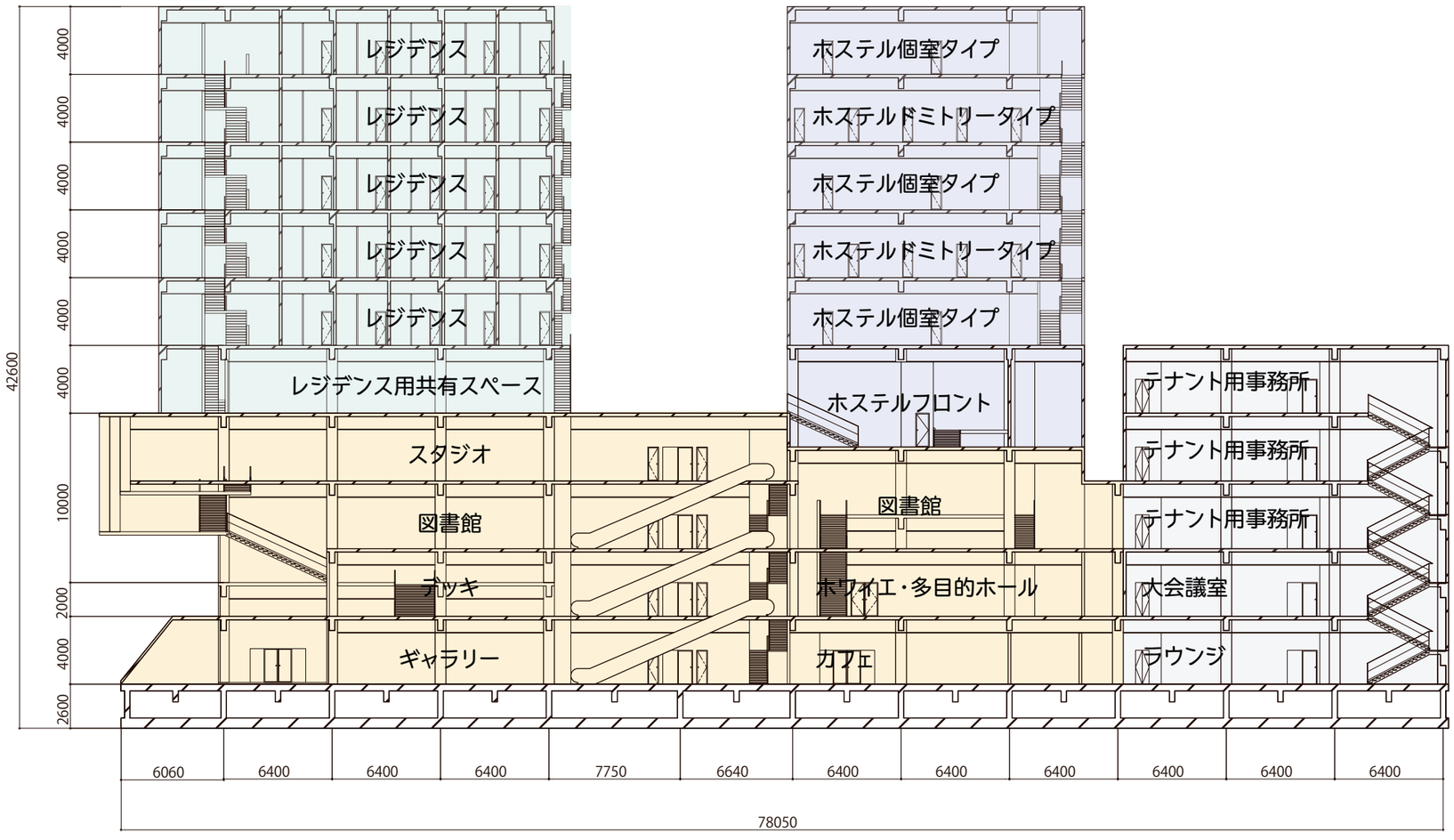
レジデンス基準階



個室タイプ基準階



ドミトリータイプ基準階


レジデンス
レジデンス
レジデンス
レジデンス
レジデンス
レジデンス用共有スペース
ホステル個室タイプ
ホステルドミトリータイプ
ホステル個室タイプ
ホステルドミトリータイプ
ホステル個室タイプ
ホステルフロント
テナント用事務所
テナント用事務所
テナント用事務所
スタジオ
図書館
図書館
デッキ
ホワイエ・多目的ホール
大会議室
ギャラリー
カフェ
ラウンジ
42600
4000
4000
4000
4000
4000
4000
10000
2000
4000
2600
6060
6400
6400
6400
7750
6640
6400
6400
6400
6400
6400
6400
78050

A-A’ 断面図

プロジェクトの成り立ち

・東京都
・台東区

→ 東京都台東区発の文化・産業・観光の振興として

・アパレル企業 → 新人育成・企業 CSR として

モノづくりの町として知られている蔵前において小売業が繁栄していることは絶対条件であり、
近場産業が継承されていることで基盤が整い、新規参入者を迎え入れやすくなる。

その結果、豊かな歴史が形成され新たな魅力として地域住民だけでなく
様々なターゲットを呼び込む事ができるだろう。

本計画がその初めの一歩となり、波及していくことを期待する。